



疥癬のおはなし（後編）

夏も終わり、やっと涼しい秋が到来した感じですが、中津医療福祉センターでは、まだまだ疥癬は旬です。前編では、疥癬がヒゼンダニによってもたらされる病気であり、普通の疥癬と重症型であるノルウエー疥癬（角化型疥癬）の2つの病型があることをお話ししました。

普通の疥癬では、直接の接触によりうつりますが、例えば食事を一緒にする、等の短時間の接触ではうつりません。同じ部屋での雑魚寝や、一夜をともにするくらい一緒にいないと感染しないと言われています。性感染症(STD)といわれていた理由です。また患者さんの寝具を介して、間接的にうつることもあるといわれていますが、頻度は低いようです。そのため、**通常の疥癬**の患者さんでは**隔離の必要はありません**。

これに対し、ノルウエー疥癬では、ダニを内包した落屑が飛び散って感染します。普通の疥癬では寄生虫が100個以下なのに対し、ノルウエー疥癬では、100万～200万個といわれており桁違いです。老健施設などの集団発生は、ほとんどが**ノルウエー疥癬**を感染源としていますので、当然、患者さんは**隔離が必要**になります。

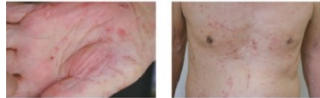
ヒゼンダニが感染しても、特に抵抗力が低下していない人ならば、普通の疥癬となりますが、**高齢者や、ステロイド剤や免疫抑制剤内服中の方など免疫が低下している人が感染すると、ノルウエー疥癬となる恐れがあります**。

さらに注意しなければならないことは、普通の疥癬の皮疹を、ただの湿疹と誤り、漫然とステロイド含有の軟膏を長期間塗布されていると、ノルウエー疥癬をひきおこす場合があるということです。

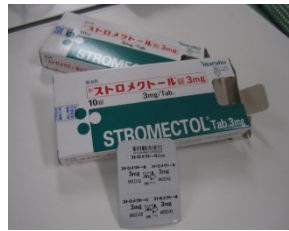
治療ですが、以前は硫黄剤の塗布などをおこなったりして苦労していましたが、現在は、**イベルメクチン(ストロメクトール®)の1回内服**が標準です。予防投与も同様です。イベルメクチンとは、あの**ノーベル賞受賞の大村智先生**が静岡県伊東市内のゴルフ場の土壌から発見した新種の放線菌から精製されたマクロライド系の抗菌薬です。このお薬が使用できるようになり治療がずいぶん楽になりました。大村先生バンザイ!!

急性期の総合病院では、耐性菌のアウトブレイクや結核には神経をとがらせても、疥癬はあまり気にとめられていません。特に、漫然とステロイド含有軟膏が塗布されている例は、盲点になりがちで要注意です。
(腎臓内科 田中敬雄)

通常疥癬
赤いブツブツ



角化型疥癬
肥厚したアカ・角質



公益社団法人日本皮膚科学会 <https://www.dermatol.or.jp/qa/qa6/index.html>

新規抗インフルエンザ薬「ゾフルーザ錠」とは!?

2018年3月、新規作用機序を有する抗インフルエンザウイルス薬のゾフルーザ錠(一般名:パロキサビル マルボキシル)が販売開始されました。当院においては2018年6月に採用となり10月より処方できるようになります。

ゾフルーザ錠は、既存の抗インフルエンザ薬とは異なり、ウイルスの転写過程を抑制する作用機序であるため、タミフル等のノイラミダーゼ阻害作用に耐性をもつウイルスにも効果が期待できます。また、イナビルやリレンザといった吸入薬は手技が煩雑であり高齢者や吸入する力が弱い人に使用すると、うまく吸入できないこともありましたが、本剤は錠剤であるため服用の利便性も高く、コンプライアンスの向上につながると考えます。今年のインフルエンザの流行時に本剤の活躍が期待されます。

用法及び用量:

- 通常、成人及び12歳以上の小児には、20mg錠2錠を単回経口投与する。ただし、体重80kg以上の患者には20mg錠4錠を単回経口投与する。
- 通常、12歳未満の小児には、以下の用量を単回経口投与する。

体重	用量
40kg以上	20mg錠2錠 (パロキサビル マルボキシルとして40mg)
20kg以上40kg未満	20mg錠1錠 (パロキサビル マルボキシルとして20mg)
10kg以上20kg未満	10mg錠1錠 (パロキサビル マルボキシルとして10mg)

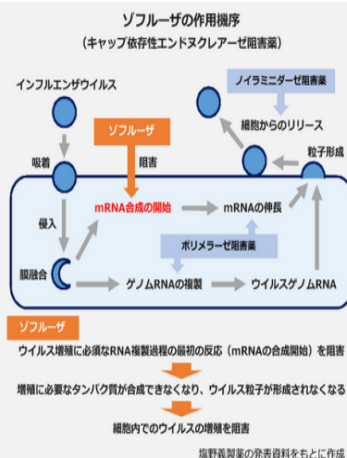
インフルエンザ



Q1: 予防投与は可能ですか?
A1: 予防投与は適応外です。予防を目的とした臨床試験は実施されておらず、予防投与における有効性及び安全性は確立していません。

Q2: 10kg以上であれば年齢は関係ないですか?
A2: 年齢による制限はありませんが、10mg錠が投与可能となるのは体重10kg以上からです。また、小児に対しては、本剤を適切に経口投与できると判断された場合のみ投与が可能です。

Q3: ジュースと一緒に飲ませてもよいですか?
A3: お子さまが飲みにくいようであれば、以下の飲み物や食べ物と一緒に服用いただけます。
・オレンジジュース・りんごジュース
・ぶどうジュース・服薬補助ゼリー
・アイスクリーム・ヨーグルト・プリン



Q4: 耐性や薬剤感受性低下株は検出されていますか?
A4: 感受性低下に寄与するアミノ酸変異を有するウイルスの発現が確認されているが臨床的に与える影響は不明です。人工的に作製した138のアミノ酸変異ウイルスの増殖能は低いことが確認されています。

Q5: 食後投与では空腹時投与と比較してAUCが36%低下しているが、用法・用量で投与タイミングを規定していないのはなぜですか?
A5: 食事の影響による薬物動態の変動を含んだ上で、臨床試験を実施し、有効性及び安全性が確認されているためです。